

萩市企業景況調査

DI方式

平成26年 1月～ 3月期 実績
平成26年 4月～ 6月期 予測

DI (ディフュージョン・インデックス)方式とは？

DIは各調査項目について判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向(「良い」)の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向(「悪い」)の回答割合が多いことを示す。

◎DI = (増加・好転など「良い」の回答割合)
- (減少・悪化など「悪い」の回答割合)
※設備投資は割合(%)

《調査機関》萩商工会議所

公共工事の波及効果や消費税増税の影響等で業種間に温度差あり。

景況の概要

平成26年4月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり。(調査対象企業：萩市内60社、回収率93%)

生産・売上 消費税増税前の駆け込み需要や、災害関連の公共工事の受注増等から、前年同期比は、観光関連業以外の業種が増加。また、前期比では季節的要因等で建設業以外の業種が減少している。今後(4～6月期)の見通しでは、観光シーズンを迎える観光関連業が好転と予測している他、建設業・製造業も若干増加と予測。卸売業・小売業・サービス業は、消費税増税後の影響等から減少と予測している。

収益 建設業・製造業は前期・見通しとも増加。観光関連は前期比がマイナスとなっているものの、見通しは増加と予測。小売は前期比で増加したものの見通しは減少と予測、卸売・サービス業は厳しい状況が続いている。

資金繰り 業種間で差があるものの、平均では前期比でマイナス幅が減少、見通しは横ばいとなっている。

従業員数 昨年の豪雨災害復旧をはじめとする公共工事の増加等で、建設業の人員不足が50.0ポイントと最も不足感が強く、製造業・観光関連業が不足、小売業とサービス業はほぼ適正、卸売業は過剰感があるとしている。

経営上の問題点 消費税増税の影響等から、需要の停滞が最も多く30.9%で、人材の確保難が18.2%、仕入価格の上昇が12.7%と続いており、その他には、同業他社との競争激化や後継者問題、原油価格高騰によるコスト増加、人件費等の経費増や店舗の老朽化などが挙げられている。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、建設業・製造業は改善傾向と予測しているものの、小売・卸売・観光産業は停滞予測が強く、全体では平均▲21.4ポイントと、前年より▲3.9ポイントとなっている。

景況に関する生の声 ■災害による土木工事発注で受注増(建設業) ■多忙の割に利益が少ない(製材業) ■消費税増税の駆け込み需要はなく、消費の低迷や仕入価格の上昇など良い要素がない(海産物加工) ■駆け込み需要により売上増、4月以降の影響を懸念(海産物加工) ■円安や仕入商品の品薄で仕入価格上昇(製肉卸売) ■駆け込み需要で3月は売上増、反動で4月が厳しい(大型店) ■駆け込み需要は少ない上、4月以降の買い控えで昨年より大幅減(専門品店) ■季節変動が大きくオフシーズンは売上収益ともに苦戦(旅館) ■需要は少なく観光客へのイメージが良くない。(旅館) ■3月は消費税の値上がりを見込んだ受注あり(特産品製造) ■3月までは観光オフシーズンで売上停滞、4月以降は消費税増税の影響が懸念(萩焼販売)